P8-3 この布で何を作る？ ～重症心身障害児者施設における手工芸の取り組み～

○北野 真奈美（OT）[1)2)]，渡辺 雅俊（OT）[2)]，杉原 史高（OT）[2)]
1）関西学研医療福祉学院 作業療法学科
2）重症心身障害児学園・病院 バルツァ・ゴーデル

Key word：重症心身障害，手工芸，自助具

【はじめに】重症心身障害児者の入所する当園の作業療法（以下，OT）では，入所者一人一人が生き生きと取り組むことのできる作業の発見と実現を目的に，グループや個人で様々な作業に取り組んでいる．その内，一人の利用者は数年間「さをり織り」を行っており，たくさんの布は完成しているが，それらは活用されることなく収納されていた．「この布をOTで活用できないか」と考え，手芸に興味を持つ2名の利用者と，2名の作業療法士（以下，OTR）で，鞄などを作ることにした．この取り組みを通して見られた2名の利用者の変化について報告する（施設とご家族には，発表の許可を得た）．

【対象者の紹介と担当作業の評価】

《Aさん》70歳代の女性，水頭症による知的障害と聴覚障害がある．15年前からは右片麻痺を呈する．健側の左肩関節には，亜脱臼に伴う可動域制限を認める．コミュニケーションはマカトン法と読唇法による．IQは測定不能である．

Aさんは，裁ち鋏を直角に固定し片方の柄を上下することで布が切れる自助具を使用して，布を切ることを担当する．布のセッティングと固定はOTRが行う．作業中の表情は穏やかであるが，合図がない時も鋏の柄を上下させるなど，やりたい気持ちが先行するためか，OTRの合図を待てない．

《Bさん》30歳代の女性，脳性麻痺による四肢麻痺（アテトーゼ型）を呈し，下肢でスイッチ操作などを行うことができる．コミュニケーションは，簡単な問いに対し，手を挙げてYES/NOで答える．新版K式発達検査では，言語・社会領域の発達年齢が2歳相当，発達指数12である．

Bさんは，OTRの手元と布が見える位置でペダルを踏み，ミシンを動かすことを担当する．操作の合図と布を動かして縫うのはOTRが行う．合図がないのに突然ペダルを踏む，OTRの準備が遅れると急かすなど，やりたい気持ちが先行するためか，OTRの合図を待てない．

【方法】個々の作業遂行が可能になった時点で，2名の利用者は並行して作業を行う．できたことは，「すごいね」「上手だね」とジェスチャーや表情を交え，その場で本人に伝える．また，制作過程を動画で撮影し，2名が同席した上で病棟スタッフに取り組む様子を紹介する．

【結果】評価を含め1週間に1回の頻度で40分間のOTを5回実施した．3回目からは2名が並行して行い，犬のぬいぐるみ2体と鞄が2つ完成した．3回目以後，Aさんは，OTRに注目しながら合図を待った．Bさんは，ミシンを操作するOTRの手元や様子に注目し，布の端の方を縫う際は，ペダルから足を外すなどの判断ができた．また，Bさんは，周囲で人が話していると声を出して訴えるなど，一所懸命に取り組む様子が窺えた．病棟スタッフに，完成作品や制作過程の動画を見せた際は，「これやったの？」の問いに対し，Aさんは自分を指さし，Bさんはスタッフの「すごーい」という賞賛に，大きな声を出し笑顔で応えた．

【考察】作業の方法や使用する道具の工夫などにより，様々な作業が可能になる．しかし，OTで作業に取り組む際は，“できる”だけでなく，対象者が“楽しい”と感じることが重要だと考える．今回，2名がこの作業に取り組むにあたり，自助具を作成するなど，方法を工夫した．加えて，意識的に行った賞賛の声掛けが，自信につながり，自分の作業に誇りを持つことができたと考える．この，自己有用感の高まりは，自分で行動するタイミングを考え，他者の様子やOTRの様子を見ながら待つなどの自発的な挑戦につながったと考える．

最後に，作業を意欲的に遂行するためには，①興味・関心のある作業であること，②少し頑張ればやり遂げられる課題であること，③ほめる・認める場面の設定がされていること，が重要であると考察する．